

座間第3団 発団35周年特別記念誌
フェニックス
目次

1. 目次	P 1
2. 育成会会長挨拶	P 2
3. 団委員長挨拶	P 3
4. 座間市長お祝いの言葉	P 4
5. 座間市教育委員会 教育長お祝いの言葉	P 5
6. 県央地区 地区協議会長お祝いの言葉	P 6
7. 県央地区 地区委員長お祝いの言葉	P 7
8. 育成会準会員 お祝いの言葉	P 8
9. 座間ロータリークラブお祝いの言葉	P 9
10. ビーバー隊リーダー	P 10～11
11. カブ隊リーダー	P 12～13
12. ボーイ隊リーダー	P 14
13. ベンチャー隊リーダー	P 15
14. ローバー隊リーダー	P 16
14. 35年のあゆみ	P 17～21
15. 写真集 ビーバー隊	P 22～23
カブ隊	P 24～25
ボーイ隊	P 26～27
ベンチャー隊	P 28
ローバー隊	P 29
団・育成会	P 30～31
16. 進級スカウト	P 32
17. 寄せ書き	P 33～36
17. 団スタッフ	P 37
18. 編集後記	P 38

発団35周年を祝して



座間第3団

育成会会長 輿水 文比古

日本ボーイスカウト神奈川連盟県央地区座間第3団は、今年で発団35周年を迎えることができました。

35年の長きに渡り座間3団の歴史を刻んでこられたことは、これまで影に日向に支えてこられた、座間市長をはじめとする地域社会の皆様、団委員の皆様、指導者の皆様および育成会員の皆様方のご尽力の賜物と心より感謝申し上げる次第であります。

少子化が叫ばれる昨今におきましては、子供同士の縦のつながり横のつながりが希薄になりがちになる中で、生活の地域を同じくする小学生から大学生までの幅広い年齢層のスカウト達が、野外活動やボランティア活動や遊びなどを通じて共に活動し、それぞれの立場で能力を発揮し、自分たちの役割を果たしながら日々成長してゆく姿を見るにつけ、スカウト達が将来よき社会人として活躍するために、この活動が得がたいものになると確信する次第であります。

これまで、座間3団の発展に情熱を傾けてくださった諸先輩の皆様に敬意を表すとともに、座間3団を支える者の一人としてその歴史の重みに気の引き締まる思いであります。

これからも指導者の皆様のご努力に報いるよう、微力ながら育成会員一丸となり、支えてまいる所存であります。

日本ボーイスカウト神奈川連盟県央地区座間第3団の今後益々の発展を祈念し、お祝いの言葉と致します。

発団35周年を祝して



座間第3団

団委員長 鈴木 正夫

日本ボーイスカウト神奈川連盟県央地区座間第三団は発団35周年をお陰様で迎えることが出来ました。これもひとえに上部団体、座間市、座間ロータリークラブ等関係各位並びに諸団体皆様方のお力添えと、育成会員、リーダー皆様方の地道な活動の努力の積み重ねの結果が35年の歴史を刻むことが出来たものと厚く御礼申し上げ衷心より感謝致します。

スカウト人口を取り巻く環境は非常に厳しいものがあり、県下のスカウト人口は毎年約五百人の減少が続いていると聞いて居ります、残念ながら座間市に置いても三個団ありましたが伝統ある座間第一団、座間第二団はスカウト人口減少により活動が出来なくなりました。

座間第三団は現有勢力48名でぎりぎり頑張っております。この数字は隊長はじめリーダーの皆様がスカウト活動を通じて青少年育成に熱い情熱を捧げて頂いている結果がリーダーとスカウト、リーダーと育成会員との間に信頼関係が作られその結果生まれた数字だと私は思います、この数字を下げないよう死守すると共にリーダーのこの情熱が挫折しないよう、更にリーダーが活動しやすい、環境作りに努力したいと存じます。

私もスカウトに負けないように、ボーイスカウトの誓いの一つ“身体を強くし 心をすこやかに 徳を養います”の言葉を座右の銘として、この誓いに一步でも、二歩でも近づけるよう心がけ、微力ではありますが皆様方のボーイスカウト活動に対するご期待に答えられるよう努力致します。

今後共皆様方の変わらぬご指導ご鞭達をお願い申しあげます。

発団35周年を祝して



座間市長
遠藤 三紀夫

日本ボーイスカウト神奈川連盟県央地区座間第三団の発団35周年を心からお慶び申し上げます。

貴団におかれましては、昭和54年に発団されて以来、35年もの長期にわたり、歴代の団委員長はじめ育成会、指導者、団員皆様が一丸となって団運営とスカウトの資質向上にまい進された献身的なご努力に対し、深く謝意と敬意を表させていただきます。

また、大凧祭、ふるさと祭りへのご協力をはじめ、市政各般にご理解とご協力を賜っておりますことに、あらためて感謝申し上げます。

さて、ボーイスカウト活動を含め青少年健全育成における環境は、国際化、情報化の進展、少子・高齢化の進行、価値観の多様化など年々歳々変化をしております。また、かつては、子どもたちの健全育成の土壌として大きな役割を果たしてきた地域社会の様相も変化が生じてきております。

そのような中、貴団におかれましては、野外活動やボランティア活動などのスカウト活動を通して、立派な品性、強健な身体、器用な技能、他の人々への奉仕といった、善良な社会人として持つべき資質を養う場を青少年に提供してこられました。

市といたしましても、学校・家庭・地域社会が一体となり、豊かな人間性や社会性を育む教育を推進するべく、「豊かな心を育むひまわりプラン」の実現にまい進しておるところであり、今後も、引き続き、わがまちの次世代を担う「座間っ子」の健やかなる育成にご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、この記念すべき35周年が皆様の一致団結をさらに固める場となり、日本ボーイスカウト神奈川連盟県央地区座間第三団がますます発展されますことを祈念申し上げ、お祝いのことばとさせていただきます。

発団35周年を祝して



座間市教育委員会

教育長 金子 楨之輔

日本ボーイスカウト神奈川連盟県央地区座間第三団の発団35周年、誠におめでとうございます。

昭和54年に発団されて以来35年という時間が経過したわけではありますが、その間には様々な指導者や団員の関わりによって、青少年に対して規律ある団体生活や心豊かな人材の育成がなされてまいりました。

ここ数年におきましては、青少年を取り巻く環境もかなり変化をしてまいりました。パソコン、携帯電話といった情報機器の発達や通信手段の変化によって、いじめ、不登校、暴力行為など以前では考えられない事象が生じてまいりました。

これらの問題は、学校や保護者だけで解決が図られる問題ではなく、行政や多くの関係機関の協力なしでは到底解決することはできません。

また、児童、生徒が異年齢間の交流が希薄となってきていることから、集団の中において縦の関係や横の関係を構築させ、その中においてどのように行動させるかを考える場を与えることが必要ではないかと思われまます。

そのようなことからスカウト運動は、野外活動や様々な体験活動を通して精神面及び体力の強化が図られ、それらのことが成長する過程において役立ってきていると思われまます。

さて、将来を担う青少年の健全育成は、我々大人たちの責務であります。昨今の世相を反映して様々な阻害要因も多く存在しておりますことから、これらの要因を家庭、学校、地域との連帯にて取り組む必要が生じてきております。

教育委員会といたしても、「のびやかに豊かな心 はぐくむまち」理念に向かい、貴団をはじめとする青少年健全育成組織、関係団体と連携して効果的かつ積極的な施策の推進を図るとともに、青少年に望ましい環境づくりに努めてまいり所存であります。

結びに35周年契機といたしまして、日本ボーイスカウト神奈川連盟県央地区座間第三団のさらなる発展と団委員長をはじめとする関係皆様方のご活躍を心より祈念申し上げまして、お祝いのことばとさせていただきます。



発団35周年を祝して

日本ボーイスカウト神奈川連盟
県央地区 地区協議会長 伊藤 幸夫

座間第3団発団35周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。また日頃県央地区運営に多大なるご支援に深く感謝申し上げます。

貴団が35年という長きにわたりボーイスカウト運動を発展続けてこられたことは、歴代団委員や指導者、育成会など関係者の方々のご尽力と熱意によるものと、深く敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

10年一昔といわれておりますが1年を一節として新しい歴史、伝統が作られて、35年の長い年月の間に指導者、スカウト一人ひとりが主人公として座間第3団の伝統を築き上げてきたものと察します。

近年の少子化や情報化の急速な進展、子供たちを取り巻く社会現象など環境は大きく変化している中、座間第3団はスカウトの数を維持し地区の範となっております、また東日本大震災の被害地へ赴き、現地でボランティアを積極的に行っており、スカウトや指導者がその役割と責任を果たすために大変な努力が伺われております。

日頃からのスカウト活動を積み重ねて大きな輪になり運動となっていくことが大切です。

ボーイスカウト日本連盟の初代総長後藤新平は1923年の関東大震災に際し内務大臣、復興院総裁として活躍され、1925年に自治三訣処世の心得を発表しました。「人のお世話を成らぬよう（自助）、人のお世話をすよう（互助）、そして酬いを求めぬよう（奉仕）です。

私たちは常に努力を惜しまずに目標を定め生きていく事が大切です。スカウト教育法『Learning by doing』（行うことによって学ぶ）を基本に大きな視野の中で推し進めることがボーイスカウト運動の発展に繋がって行く事を確信して止みません。

座間第3団の発団35周年の歴史と伝統を踏まえて、新たな創造、未来に向けて益々の発展を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

発団35周年を祝して



日本ボーイスカウト神奈川連盟
県央地区 地区委員長 松島 昭

座間第3団がここに発団35周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。座間市では維持が困難になった団が相次ぐなかで、唯一大きな団を維持してこられました。300年の伝統を誇る日本一の大凧まつりや市民ふるさとまつりへの奉仕など地域に密着した活動をされてきたことと、いろいろな困難を乗り越えて献身的に団を支えてこられた多くの指導者や育成会など関係者の皆様のおかげと、心より敬意を表するものです。

創始者ベーデンパウエル卿のラストメッセージに謳われているように、この運動の究極の目的はみなさんが幸せな人生を歩むことです。私たちは奉仕を通して社会の役に立つことを目指していますが、自分が社会にとって役に立っているという喜びが幸せです。そして明日の社会を担う立派な青少年を育成することは、我が国の初代総長である後藤新平がいうように最も高尚な奉仕です。

青少年の成長にとって、人との係りと自然との係りは欠かせません。協力や思いやり、話し合いや分かち合いといった人間関係は班制教育により、また野外活動はさまざまな技術や人間の限界、信仰心を学びます。この点からもボーイスカウト運動は現代社会からもっとも求められている教育運動であり、奉仕活動といえます。ひとりでも多くの子供たちをこの運動に呼び込み、明日のより良い地域社会をつくりたいと思います。

座間第3団は、「家族的な団」をモットーに、明るく楽しい団として、スカウトや保護者を大切に活動されています。今まで築き上げてこられた35年に加え、素晴らしい団の歴史をさらに積上げ、大いなる飛躍とますますのご発展を願っております。

発団35周年を祝して



育成会 準会員

元座間市議会議員 飛田 昭

三指 日本ボーイスカウト座間第3団発団35周年誠におめでとうございます。今日まで長きにわたり継承された団関係者の皆様に敬意を表するとともに心よりお祝いを申し上げます。

団員の皆様は「ボーイスカウトの誓いと掟」の中で「3つの誓い」を名誉にかけて実行を誓い、「掟」として「8つの掟」に取り組まれている姿に感動をいたしております。

学校教育とは別に地域活動、ボランティア活動、福祉活動などに積極的に取り組まれております。「掟」にあります、「誠実である」「友情に厚い」「礼儀正しい」「親切である」「快活である」「質素である」「勇敢である」「感謝の心を持つ」。このような掟を実施されています。また団員の皆さんは青少年の模範として野外活動などを通じ自立心、自然を学ぶ更に、色々なトライをされて、自分にあったものを発見するというのも運動の一つになっていると聞いております。

今後少子化が進むことを懸念いたしておりますが、今日まで育成活動の伝統を守り育成活動に尽力をされてこられました歴代の育成会長、団委員長、関係者の皆様に御礼を申し上げますとともに更なるご活躍に期待を申し上げます。

最後になりますが35周年を契機に50周年を目指して座間第3団が更なる飛躍をされますようにご祈念申し上げます。

弥栄

記念誌によせて



座間ロータリークラブ
会長 石村 英樹

ボーイスカウト座間第三団発団 35 周年おめでとうございます。わたしたち座間ロータリークラブは来年で創立 45 周年になりますが創立当初より青少年奉仕の一環としてボーイスカウト運動にささやかながら助成を行ってまいりました。また、第三団に対しても 1981 年より助成金を交付しております。

ロータリークラブは職業倫理を重んじる実業人、専門職業人の集まりですがその目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにあります。そしてその中核的価値観は奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップです。私たちはこれらの価値観に従って生き、地域社会にこれらの価値観を広めようと努力しています。

ボーイスカウト運動は「自らの健康を築き、社会に奉仕できる能力と人生に役立つ技能を体得し、かつ、誠実、勇気、自信及び国際愛と人道主義を把握し、実践できるよう教育することをもって目的とする。」とありロータリーの目的や価値観と通じています。今年度国際ロータリーのテーマは「ロータリーを通じてみんなに豊かな人生を」でした。ロータリーを真に実践し、ロータリーの奉仕と価値観を日々生かす決意をすれば、わたしたちの人生が豊かになるということです。「ボーイスカウト運動を通じてみんなに豊かな人生を」この言葉をボーイスカウト座間第三団に送り発団 35 周年をお祝い申し上げます。